

第34回 子どもの学びを創る会  
新しい学習指導要領における国語科学習  
—友だちと紡ぎ出す学びの創造—  
5つのポイント

上記のテーマのもと、山口大学教育学部附属山口小学校の原浩一郎先生にお話していただきました。



友だちと紡ぎ出す学びを創造していくためには、次の5つのポイントがあるそうです。

- ② 「学びのストーリー」を創る
- ③ 「既習事項が生きる単元」を創る
- ④ 「学び合う学び」を創る
- ⑤ 「実感のある言語活動」を創る

これらのポイントについて、「スーホの白い馬」の実践を具体例としてあげながら、お話いただきました。



- ① 「共感し合う仲間関係」を創る このためには、「聴くこと」「話すこと」を段階的に指導していくこと、話し合いにおける、発言の仕方を指導することや、つぶやきの取り上げが重要だそうです。
- ② 「学びのストーリー」を創る このためには「子どもの問いを出発点にすること」「問いの重なりや感想のちがいをから読みのめあて、学習課題を創っていくこと」「叙述へのこだわりを強めること」が上げられました。
- ③ 「既習事項が生きる単元」を創る このためには「実感を伴いながら学習内容・学習方法を獲得していくこと」が大切だそうです。

④「学び合う学び」を創る 「一人一人の問いをもとに課題を練り上げていくこと」「個々の考えを整理した座席表をもとに意図的な指名をし、多様な考えを引き出すこと」「仲間の考えが自分の考えの発展に生かされていることの実感を味わわせること」

⑤「実感のある言語活動」を創る これまでの学習で高まった思いと通じた言語活動を設定する。「自分の問いと結びついた言語活動」「自分の生活とかかわった言語活動」



休憩時間にも質問や意見交換が積極的に行われました。



後の協議では、単元構成に沿って話し合っていました。主な話題は、「全員の子どもたちに一人学びを確実にこなわせるためにはどうすればよいか」「話し合いで叙述から逸れないようにするためには」「一人一人の問いをどうやって全体の学習課題につなげていくか」「全体の学習課題が、一人一人の子どもの学びに通じているのか」「教師の教えたいことを、子どもにとって学びたいことに、どうつなげていくのか」ということでした。



原先生のお話の中で、とくに大切だなと思ったことは、「この子達にとって」ということと

「積み重ね」ということです。「この子達が今このような力だから、この教材を通して、こんな力を伸ばしていこう。そのために、じっくり子どもを見つめ、教材を分析していく。そして、共感し合う仲間づくりのための活動を始め、国語科の学習内容を確実に習得させるための活動を積み重ねていこう」ということでした。